

ETAJIMA GoON! Vol.8

僕が江田島を走り続ける理由。



Vol.8
こづた
小蔦道雄



近年、江田島市でも需要が増えている「サイクリング」。そんな注目のアクティビティの先導者：サイクリストといえば「小蔦さん」と答える方が江田島市内には多いのではないだろうか。

今回のインタビューでは、能美町高田在住のサイクリスト・小蔦道雄さんに、自転車を通して気づいた「地元愛」のお話や活動への思いなど、サイクリストとしてのさまざまなお話を伺った。

「サイクリスト・小蔦道雄」 自転車との出会い

生まれも育ちも能美町だという小蔦さんは、小学校の頃は部活などに励み活発な子どもだったが、中学・高校と運動とは無縁の世界にいた。「高校は広島市内の学校に進学したのですが、部活には所属せず、ただ学校へ行って勉強して島に戻って来るといふ運動とは無縁の生活をしていました。それから数十年が経ち、だいぶ大人になってから自転車にハマったので、最初は体力的にも大変でした(笑)」

小蔦さんは約10年前、自転車と出会った。まさか自分がハマるなんて…と笑って話す小蔦さんが、自転車に乗るようになったきっかけは何なのだろうか。

「2011年に起きた東日本大震災を通して、ガソリンが無くなるなどの問題で自転車が交通手段として注目されていた。当時、このニュースを目にして、『交通手段として』の自転車で少し興味を持ったんです。そんな時、趣味がサイクリングだという、広島のアナウンサーの方のブログを偶然見たんです。その方は朝の仕事を終わったらすぐに広島市内から呉市や江田島市まで自転車で走っていたのですが、たまたまブログを拝見した時に、偶然にも、昔から馴染みのある江田島のある場所で写真を撮られていて。写真には『僕の大好きな場所』と書いてありました。その時、自分が住んでいる土地を好きだと言ってくれる方がいるということが嬉しかったんです(笑)。普段何とも思っ

ていなかった景色が、ブログを通して見ると何倍も素敵に見えて(笑)。それで、僕も同じようにこの場所を自転車で走ってみようかなと思っただけで、自転車で走り始める最初のきっかけなんです」

地元に戻って来てからは仕事の毎日。移動手段は、自動車かママチャリだったという小蔦さんの生活の中に飛び込んできたのが「スポーツバイク」だった。「いざ漕ぎ出すと、面白くてね。その日のうちに西能美島を一周したんですよ(笑)」

初めて購入したクロスバイクを、仕事終わりに夢中で漕いだ。スイスイ進む感覚が面白くて、気持ち良くて、日頃のストレスも飛んでいった。漕いでいくうちに、見慣れているはずの地元の景色も今までは違った景色に見えていったという。「ロードバイクへ乗り換えてから、もっと自転車に乗るようになって、同じ趣味

を持つ仲間ともたくさん出逢いました。その仲間たちとの出逢いが、今の江田島での僕の活動に繋がっているんです(笑)」

「地元愛」と「可能性」 自転車を通して気づいた

小蔦さんが現在所属する団体「瀬戸内サイクルメディア」は、サイクリストがただ自転車で行くだけでなく、目的の場所に対して、自転車で地域活性化に繋げる取り組みを行っていた。小蔦さんは、そんな仲間たちに感化されていったという。「さまざまな地域の人たちと協力し合って、自転車で地域活性のイベントを立ち上げるなんて、当時は考えもしなかった。単に趣味として自転車を漕ぐのではなく、自転車を通して地域の課題に向き合うことができるとか驚きました。そのような取り組みに僕も参加していくうちに、江田島でも何か出来ないかな…と思うようになり(笑)」

それから小蔦さんは、積極的に仲間たちを江田島市に連れてきては、地元住民ならではの目線で市内を自転車で回った。そのうち、仲間も『江田島のファンになった』と言ってくるようになったという。「江田島へ気を入れてくれた仲間が、また新しい人を連れてきてくれる。そのうち県外からもお問い合わせが来るようになって、自分が中心となって江田島をガイドするようになり(笑)」

く通っている場所なのに、外から来た人にとってはとても新鮮らしく。「綺麗だね」「凄いね」なんて言っていて、喜んでくれるんです。そういう声を直接聞く度に、自分の行動は、実はいろんな可能性を秘めていて、これが地域活性化に繋がっていくかもしれないなと思っただけです(笑)」

小蔦さんが「自転車で地域活性」の可能性を見出した瞬間だった。「江田島の魅力を自ら漕いで再発見し、どんどん外の人に伝えていく。自転車を通して気づいた地元愛が、漕ぎ続ける理由のひとつになったんです」

会社などを巡りながら食材をゲットするというのが、「食・体験・交流」が揃った複合アクティビティ「otsukai」江田島」というプロジェクトの監修も引き受けている。「今まで以上に自転車と江田島の魅力を発信していきたいように頑張ります。とりあえず…体が動く限りは漕ぎ続けましょうかね(笑)」

サイクリスト・小蔦道雄さん。ひよんなことから漕ぎ始めた自転車ですが、いつしか自分の顔となり、相棒となった。地元愛溢れるサイクリストは、今日も島のどこかで魅力再発見に動いているのだらう。

移動手段でもいい。自転車というツールが、市が取り組んでいる。島の交流人口を増やす。きっかけのひとつになるかもしれない。「大人も子どもも一緒になって楽しんでる姿を見ると、もっと漕ごうという気持ちになります。どうせ仕事として漕ぐなら、自信を持って江田島は良い場所なんです!と言えるようになりたい。だから、漕ぐのを辞められなくなり(笑)」

現在、小蔦さんは地域活性の取り組みのひとつとして、農家さんや卸

otsukai! 江田島

食材を購入して巡り、「おつかい」を楽しむアクティビティ! 瀬戸内海が一望できる絶景ポイントや地元の人しか通らないような農道など様々なロケーションを自転車で駆け巡ります。

otsukaiの予約はこちらから!

瀬戸内サイクルメディア

自転車の素晴らしさと瀬戸内の魅力を発信する団体。サイクリングに興味のある方は、ぜひお問い合わせください。

▶▶▶ <https://npo-scm.wixsite.com/setouchi>

地域活性の可能性を信じて、体が動く限り、漕ぎ続けたい。



小蔦道雄さん

山岡水産
山岡大悟さん・智美さん



写真上: 砲台山など、江田島の歴史にまつわる場所もガイドしている小蔦さん。写真右: 相棒のロードバイクはいつでもどこでも一緒。